

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経営戦略研究科・会計専門職専攻
大項目	2 教育内容
中項目	
小項目	2.0.1 教育内容
要素	<p>①教育課程が、社会的期待を反映し、理想とする会計職業人を養成する目的を実現することに資するものであること。</p> <p>②次の各号に掲げる授業科目群からの履修により、段階的な教育課程が編成されていること。</p> <p>(1)基本科目 (2)発展科目 (3)応用・実践科目</p> <p>③基準2-0-1②の各号のすべてにわたって教育上の目的に応じて適当と認められる単位数以上の授業科目が開設されているとともに、学生の授業科目の履修が同基準各号のいずれかに過度に偏ることがないように配慮されていること。また、会計大学院の目的に照らして、選択必修科目、選択科目等の分類が適切に行われ、学生による段階的履修に資するよう各年次にわたって適切に配当されていること。</p> <p>④各授業科目における、授業時間等の設定が、単位数との関係において、大学設置基準第21条から第23条までの規定に照らして適切であること。</p>

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 提供するカリキュラムが会計職業人の養成に資するものとして、各講義ごとの学生の到達目標を明らかにする。	→学生の到達目標を明示したシラバス数	D
2. 「公認内部監査人」資格取得を目的のひとつとした企業経理担当者養成履修プランの開発	→「公認内部監査人」を目的とする履修プランの作成・改訂状況	D
3. IT関連科目および英語コミュニケーションを体系的に学習するためのカリキュラムの構築	→IT関連科目・英語コミュニケーション科目のカリキュラムの設定構築状況	D

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

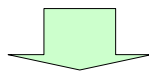
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目2.0.1	<p>(現状説明)</p> <p>1. 実務家教員との連携 カリキュラムに関する委員会を研究科内に設け、実務家教員と研究者教員がカリキュラムの立案に関わることにより、実務家教員が一部にコア科目やベーシック科目を担当し、研究者教員が実践的なアドバンスト科目を担当するなど講義内容についての連携がとられている。適宜カリキュラムの修正を行うなど、不断に検討を行って改善を図る。</p> <p>2. コース制プログラム制 ①公認会計士養成、②企業経理財務担当者養成、③地方自治体会計・行政経営専門職養成という3つの目的に沿って体系的に履修できるように、公認会計士養成プログラムと企業経理財務担当者養成プログラムからなる「企業会計コース」と、地方自治体会計・行政経営専門職養成プログラムからなる「自治体会計コース」を設けている。</p> <p>3. 会計専門職専攻のカリキュラムは、「コア科目群」、「ベーシック科目群」、「アドバンスト科目群」の三つの段階の科目群から構成されている。各科目群の概要は次のとおりである。</p> <p>①コア科目群 コア科目群は、公認会計士等の職業会計人に求められる資質・能力を修得するために必要不可欠な基礎的知識を学ぶための、基本科目群である。</p> <p>コア科目群のうち、「国際会計論」「会計倫理」(計4単位)は必修科目である。なお、地方自治体会計・行政経営専門職養成プログラムを選択する学生は、申請により「国際会計論」を「国際公認会計論」と読み替えることができる。</p> <p>②ベーシック科目群 ベーシック科目群は、コア科目を修得した後、アドバンスト科目を学ぶための基礎となる科目であり、会計を学習する上で基幹となる科目群である。</p> <p>③アドバンスト科目群 アドバンスト科目群は、コア科目とベーシック科目を学習した後、会計の学習を展開・発展させる科目群である。職業会計人として求められるリサーチ能力、文書作成能力やプレゼンテーション能力を高めるために、財務会計、管理会計、監査の三分野においては、研究論文の提出を含む課題研究を置いている。</p> <p>4. 少人数教育の実践 双方向的、多方向的で密度の高い授業を展開するため、クラス規模をできるだけ少人数となるよう、一つの科目を複数クラス開講する。</p> <p>5. 成績評価の原則 ①全科目において定期試験(筆記試験またはレポート)を実施する。 ②コア科目、ベーシック科目は、経営戦略専攻との合併科目を除き、原則として筆記試験を行う。 ③定期試験のみで成績評価をしない。出席状況、課題への対応、小テスト、授業への取り組みといったことを含めて総合的な評価を行う。 ④シラバスで成績評価の基準を明確にする。 ⑤コア科目、ベーシック科目は相対評価とする。アドバンスト科目は絶対評価とし、1クラスにおける各評価段階(A+~F)の割合を原則として定める。</p> <p>成績評価の結果と評価割合は、「A+(10%)、A(10%)、B+(20%)、B(30%)、C+(10%)、C(10%)」の6段階評価とし、不合格は「F」(10%)とする。</p> <p>6. 履修単位制限・修了要件 履修単位制限は、各年次各学期(春学期・秋学期)20単位であり、2年以上在学し、48単位以上を修得することが修了要件である。ただし、実務経験等一定の要件を満たす場合には、入学時の申請により、修業年限や在学期間を短縮することができる。</p>
☆ その他	<p>提供するカリキュラムが会計職業人の養成に資するものとして、各講義ごとの学生の到達目標をシラバスで明らかにするように進めている。</p> <p>また、「公認内部監査人」資格取得を目的のひとつとした企業経理担当者養成履修プランの開発やIT関連科目および英語コミュニケーションを体系的に学習するためのカリキュラムの構築に取り組んでいる。</p>

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

★	小項目2.0.1	
	その他	



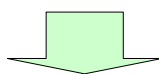
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

★	小項目2.0.1	
	その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

★	小項目2.0.1	
	その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

★	小項目2.0.1	
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

○現状説明は内容の充実した記述です。

○目標に対する進捗評価がいずれも「D」となっております。改善すべき事項に次年度どのように改善するかを期待します。特にIT関連科目の整備が、2008年に受診した分野別認証評価に関する要望事項として記されておりますので、その点の対応をお願いします。

○2008年に受診した分野別認証評価に関する要望事項(国際会計教育基準では、ITがカリキュラムの柱として位置づけられている。本会計大学院カリキュラムは、グローバルスタンダードに合致していることを標榜していることから、国際会計士連盟の教育基準をより詳細に検討し、不足している授業科目がないかどうか検討することを要望する)への対応はいかがでしょうか。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- ★
1. 講義ごとの学生の到達目標の明示については、各教員がシラバスに明記することを専攻会議で示達している。
 2. 公認内部監査人の履修プランについては、改訂を進めている。
 3. IT関連科目の設置については、「IT基礎」「IT統制」という科目を2010年度から設置して対応している。
 4. 国際会計教育基準への対応については、毎年度のカリキュラム委員会へ提案されるカリキュラム案策定の際に専攻会議において協議されている。